

【平成17年度専修学校教育重点支援プラン事業】

事業名	オープンソースソフトウェア分野の人材育成を目的とした4年制学科における産学連携教育プログラム		
学校法人名	学校法人コンピュータ総合学園		
学校名	神戸電子専門学校		
代表者	福岡富雄	担当者・連絡先	福岡壯治

<事業の概要>

IT業界との連携体制の下で、オープンソースソフトウェア（Open Source Software（OSS））の技術を駆使できる本格的・実践的なIT人材の育成を目標とする教育プログラムの開発とその実証を実施した。具体的には、専門学校4年制学科を想定とする育成カリキュラムと育成人材モデルを策定すると共にプロジェクト演習によるケーススタディ教材を設計・開発した。さらに教材の開発後には専門学校生を被験者とする実証実験を行い、教育プログラムの妥当性を検証した。また、教育プログラム全体のデザインに際して必要となる各種情報の収集を狙いとする調査研究も行った。

<成 果>

育成人材モデルは、エン트리レベルのOSS人材が備えるべきスキルを779項目に及ぶ詳細な粒度で網羅的に定義したものであるが、これにより教育プログラムが目標とする人材像を明確かつ定量的に示すことができた。ここにはOSS分野の第一線で活躍されている企業の委員の意見が反映・集約されており、専門学校にとっては非常に有益な情報となっている。また、カリキュラム設計の起点的な情報として見ても十分な内容である。

育成カリキュラムは、トップダウンアプローチにより専門学校4年課程におけるOSS人材の育成に最適化された設計とすることができた。実施委員各校のこれまでのOSS教育のノウハウや過去の文部科学省委託事業の成果をベースに、調査研究の結果や研修ロードマップなどの内容を取り込むことによって、実践性の高い内容構成にまとめ上げられている。プロジェクト演習のような実践型の演習・実習科目の強化・徹底を図るなど、4年課程としての特色も打ち出されている。このようなOSS分野に特化した専門学校カリキュラムは今のところ他に類例が見当たらず、これは本事業の大きな成果のひとつである。

教材開発では、実稼動しているアプリケーションを素材とするケーススタディによるプロジェクト演習教材を制作することができた。特にここでは、実際に使われているシステムそのものが題材とされている点がポイントであり、学生にとってリアリティのある教材に仕上がっている。専門学校3年生を対象に行った実証実験の評価結果を見ても、この教材を用いた授業の学習成果は高く、またケーススタディやプロジェクト演習といった学習スタイルに対する学生の見方はたいへん良好である。このことから本教材は、4年課程の高学年次における実践科目に対して十分に適用が可能であり、かつ学習効果が期待できる。

主としてカリキュラム策定の検討素材の収集を目的に行った調査研究であるが、そのレポートは今後も活用できるものとなっている。特に海外のモデルカリキュラムや標準知識体系に関する調査結果は、カリキュラムの継続的な見直しや改修を図っていく中で多くの示唆となる情報を含んでいる。